

ひと

なりとも  
成田 知巳 さん(52)

黒雲が広がり、空がゴロゴロと鳴り出すと、すぐにパソコンの画面を確認する。国内のあちこちに置いた「分身」たちは、今日も働いているだろうか――。

世界各地に小型の落雷受信機を設置し、落雷の発生をリアルタイムでウェブサイトの地図に表示する。欧米などの研究者がボランティアで展開するそんな活動に昨年2月、国内でいち早く参加した。

地図はだれでも無料で閲覧可能。農家など、屋外で働く人の落雷事故防止につながる取り組みだ。

中高時代はアマチュア無線に熱中した。通い慣れた東京・秋葉原の電気街でいま、受信機の部品を調達する。店を回って数百円、数千円のパーツを買い集め、電気工

学を教えるゼミ生と組み立てる。これまで北海道、東京、沖縄などの計13カ所に置いた。知人宅や大学など、場所は様々だ。

受信機がとらえるのは、落雷から放たれた電磁波。方角や受信時刻などのデータがドイツのサーバーに瞬時に送信され、落雷地点がわかるという仕組みだ。

世界中で1千カ所以上に受信機がある。多いほど精度が上がるが、国内では自分が置いたもの以外はと力所だけ。「組み立ては電気が得意ならさほど難しくくない。いつでも教えます」

自宅マンションのベランダの隅にも1基。趣味で育てるバラの鉢のそばで、空を見張っている。

文・写真 小北清人

